

富士学校は、昭和 29 年 8 月にそれまで、別々に存在していた普通科学校、特科学校、特車教育隊を総一体化して誕生した。世界に類を見ないコンバインド・アームズセンターとしての役割を期待されている。その為に鋭意全職員努力しているところであるが、その為にはまず己の職種に誇りと矜持を持たねばならぬ。普通科、特科、機甲科それぞれの職種がそれぞれの職種を如何に認識し、どのように育てようとしているかは、それぞれの部のモットーというかマインドに端的に示されている。そのマインドは、それぞれの職種の原点でもあり、それを再確認することも、富士紀行の終末段階としては益あることだろう。

先ずは、機甲科である。機甲科の学生教場や教官等の事務室等あらゆる所に掲げられている「機甲かくあるべし」を採り上げよう。

本稿を思い立ったきっかけが、掲示された「機甲かくあるべし」であったからだ。

「一瞥克制機 万信必通達 千車悉快走 百発即命中 練武期必勝 陣頭誓報国」

これは、陸士 20 期の吉田中将の作である。吉田中将は、騎兵監、機甲本部長、機甲軍司令官、関東防衛軍司令官を務められた機甲の神様とも称されるような方である。確固たる信念で 2・26 事件の判士長を務め、弁護に任じた満井佐吉中佐を強く一喝したことは有名である。惜しまれつつ昭和 20 年退役。

この文言の意味は、次のとおり。

一瞥克制機：一瞥して全般の状況を把握、断固決断し機先を制して行動せよ。遲疑逡巡は誤判断に劣る。“果断”“機敏”“洞察力”が機甲兵として求められる資質である。

万信必通達：近代戦下において、ハードのみに頼る通信に 100% の意思疎通はない。妨害電波、偽信乱れ飛ぶ中であって、片言隻語をもって相互の意思を通じ合う根源は相手の立場に思いを至す心と相互の信頼感である。

千車悉快走：快走とは、単に走ることではない。国民から預かっている高価な戦車の性能を最大限に引き出し、戦力として機動することである。戦車乗員と補給・整備を含め後方を支えてくれる人々とのチームワークがなければ快走は出来ない。

百発即命中：射撃は戦車の命であり、機甲兵の表芸である。何に負けても良いが表芸において遅れをとることは恥と思え。生死をかけて敵と向かい合った時、沈着冷静、断固敵を撃破する精神力と戦技を磨いておけ。

練武期必勝、陣頭誓報国：平時にあって精強な部隊を維持練成しておくことが機甲兵に課せられた使命である。精強な部隊の存在こそ、戦争を抑止する力である。しかしながら、不幸にして抑止破れ、一度他国の侵略を受けることあらば決然として陣頭に立ち、生命を投げ捨てて戦い速やかに平和を回復せよ。これが、美しき日本に生を受け、日本の平和を支える我々武人たる機甲兵の誇りでなければならない。(以上機甲科部長からの資料による)

次に普通科部が検討中の普通科魂(普通科マインド)について瞥見しよう。

新たな時代に対応するためには、従前の意識から脱却した新たな倫理観が必要である。新しき皮袋には新しい酒を満たさなければならないのだ。普通科部においては、こ

のような時代認識のもと、新たな時代に相応しい精神要素としての「普通科魂」を制定し、平成14年度から学生教育の場等において資質の実践陶冶・充実を図るために、主導職種としての職種マインドを検討中である。即ち、今正に陸自には多様な任務や役割が求められつつあり、そしてその主体を普通科が担わざるを得ないのは必然である。また、LIC、HIC等々普通科戦闘も様変わりである。唯単に隊員が多いというだけではなく、その役割からも普通科は陸自の骨幹職種である。従来の歩兵というイメージから程遠い存在になりつつあるのが普通科である。然しながら、普通科職種隊員（幹部）の意識やレベルはその域に達しているとは言い難い。喫緊の課題は普通科魂の再構築である。このような背景認識のもとに策定作業がなされつつある、普通科魂とは以下のものである。

- ① 普通科とは： 戦闘の勝敗に責任を持つ職種
- ② 普通科の意義： 陸自精強化の指標（自衛隊の強さは普通科の強さ）
- ③ 普通科の役割： 近接戦闘、各種作戦・戦闘の基幹部隊、各種地形・気象を克服し、各種輸送手段に順応して多様な任務を遂行即ち任務に応じて何でも出来る戦士
- ④ 保有すべき資質（礎にして魁たれ）
あらゆる任務に対応する「礎」の精神と時代に対応する「魁」の精神
- ⑤ 倫理観（コアバリュー）： 名誉、信念、勇氣、奉仕
(以上普通科部教育課長からの情報提供受け)

次は特科職種である。特科職種はこれぞと云うものは現存していないが、学生教育万般に亘り強調されている事項がある。それを特科魂と称してもあながち誤りではあるまい。

その第一は、「弾丸先（たまさき）勝負」である。即ち、全ての努力を弾丸先に結集・帰一させるということである。野戦特科は射撃により任務を遂行する。このため、野戦特科の陣地占領・測量・通信・情報・観測等のあらゆる行動は、全て射撃の弾丸先に帰一される。これは、戦技の習熟及び努力の結集といった識能のみならず、野戦特科の使命感・責任感はもとより、所謂野戦特科精神と言われる「協同精神・敢闘精神・周密・機敏・剛胆・武器・弾薬の愛護」といった資質面・形而上の要素をも包含したものである。言わば、不易流行の不易の部分であろう。特科部はこれを野戦特科の指標として掲示し、学生の修学目標にしている。

その第二は「マインドのハイ・ローミックス」である。最近の特科の風潮であろうか、高度なハイテク装備の技術的側面の教育訓練を重視する余り、野戦特科の原点である「戦闘職種として厳しい状況下で、野戦部隊として任務を遂行する。」との意識が薄れつつある。マインドのハイ・ローミックスとは、高度なハイテク技術に臆することなくチャレンジし、そしてそれを自在に駆使する「ハイ」のマインドと、一方で、野戦での汗臭さや泥にまみれることをも厭わず、死なば諸共の運命共同体としての仲間意識や人間味を大切にする「ロー」のマインドを、二つ共に併せ持つ特科部隊の隊員であるべきとの目標を端的に表したものである。言わば、不易流行の流行の部分か。「野戦特科の精神的モットー」として掲げ、あらゆる場を通じてこれが資質の涵養を図っている。

(参考：特科部長の資料)

これら普・特・機 3 主導職種の気概を感じてもらえれば幸いである。そして、エールをお願いしたい。